

在宅医療

最近ニュースなどにも取り上げられるようになってきた在宅医療ですが皆さんはご存知でしょうか？

は病院そのものがない、という深刻な問題が生じております。

私は現在、厚生労働省・東京大学・柏市の新しい取り組みとしての『柏プロジェクト』に参加させていただき、そのモデルケースを東京大学と共に研究しております。今、新しい取り組みと申しましたが、実は在宅医療って昔からある文化で新しい医療制度でもなんでもないのですね。昔のお医者さんは、病人の方が出ると、往診バックを持ち家族に引つ張られながら具合が悪くなった患者さんのところに行ったものでした。映画『3丁目の夕日』の宅間先生のイメージです。そして1970年頃までは日本の医療はその流れが中心だったのです。その後、医療の分業化や病院側が中心の医療となった結果、具合が悪くても患者さんが自力で病院に行く、ひどい場合は救急車がありますが・・・入院して治療するという医療体制が当たり前になりました。しかし、ベッドが空いてなければ重症

でも入院できない現状、医療費の高騰化、場所によって

私は往診医療により医者不足&医療格差の解消や医療費削減をすることが必要だと考え、周囲の先生方と日々一緒に活動しています。末期癌で治療ができない重症患者様・慢性期疾患や脳梗塞・心筋梗塞後遺症により移動困難の方・病院嫌い・高齢のため寝たきりの方など、外来診療が受けられない方々や周囲に医療機関がなくて通院できない方など、診させていただいております。そんな在宅診療をする中で僕が感じていることを少しお話させて下さい。

医師が外来で患者様を診させていただくならば患者様側が病院のルールにある程度従う義務があります。しかし患者様のお宅に伺うのであれば、一軒一軒にご家庭のルールや家族の歴史がありますので訪問する医師側がそれに従う義務があるといつも感じております。家とは「最小単位の国家」治外法権であり、中にはアツと驚くことも度々あるのですよ！

比較的小さい患者様の多くは、それまでの医療機関で薬剤漬けになっていたことが多いです。医療の交通整理をするこ

その代り、家族様であったり親友であったり一緒にいる方々がなれるように自覚を促すことはできると信じています。名医とは、一番近くにおいて最初に気が付いてくださる方、日々のどんな小さな変化でも直ぐに気付いてくれる周囲の誰か、なのではないでしょうか？

「どうしたの、大丈夫？」「手伝いましょうか？」「そんな周囲の互いにかかけあう言葉や働きかけが、今の時代、何よりも大切なのではないのでしょうか？

医療ではありませんが、人様の御自宅に入り込むという特性上、仕事というより「人として何ができるか？」という気持ちが大切だと実感している毎日です。医師でなくても皆様関わっている近隣の方々に「人として何ができるか？」を意識すること

で早期発見、早期治療でき軽傷のうちに改善できる、医療そのものがなくても良かったケースも多いと感じます。

名医はどこにいる？
皆様にはいらつしやいますか？

以前、私は真剣に悩んだことがあります。患者さんの顔を眺めたりテレビに出てくる御高名な先生を探したり、自分の足元を見て悩みました。結論「私は皆様の名医にはなれない。」でした。



くわのクリニック院長
くわの ゆうすけ
桑野 雄介

日本医科大学医学部を卒業後、慶応義塾大学医学部外科学教室に入局。その後、千葉県内の総合病院勤務を経て、現在は同県内「くわのクリニック」院長として総合医療に従事し、講演会活動も行っている。

あなたの大事な誰かの名医を目指しませんか？
皆様が名医になれるよう応援させて下さいね。

厳寒の雪降る2月15日長野市善光寺表参道、藤屋御本陣にて近郊にお住まいの読者の皆様にお集まり頂きました。

千葉県松戸市にて開業されている医師桑野雄介先生をお招きし予防医学講座「いつまでも健康で美しく」と題してご講演を頂きました。往診に行かれた時、皆が何気なく踏んでいた落ち葉を90歳のおばあちゃんが手に取り太陽に翳し美しいと呟かれた、その笑顔が輝いていて・・・素敵に歳を重ねきた女性は、何歳になっても感性が鋭く若々しくいられるとエピソードを交えながら教えて下さいました。先生が患者さんと人間同士として向かい合って診療されている、温かいお人柄を感じたお話でした。その後、新進気鋭の二胡奏者高山賢人さんのポップス、ジャズ、クラシックの演奏を堪能しながらお食事を頂きました。

ながらお食事を頂きました。

ほほえみいっぱい運動

ほほえみセミナー 健康生活舎主催



雪舞う幽玄の世界の中美しい音色と皆様の笑い声が響き楽しい時が過ぎました。若さ、美しさそして健康のみなもとは笑顔であると改めて実感した1日でした。



前：左 桑野先生 右 高山さん
ほほえみセミナー スタッフ
後：左から：手塚・小野田・狩野さとい・狩野万葉・土井・岩下・塚本